

PERFECT MASTER

歯科国試パーフェクトマスター

クラウンブリッジ 補綴学

木本克彦・星 憲幸 著



購入者特典



電子版アプリ (iOS, Android 版)
利用権つき

歯科医師国家試験出題基準対応

医歯薬出版株式会社

総論

Check Point

- ・クラウンブリッジによる治療の特徴を理解する。
- ・下顎運動について理解する。
- ・クラウンブリッジに必要な検査について理解する。
- ・クラウンブリッジの要件を理解する。

I. クラウンブリッジによる治療の利点と欠点

クラウンブリッジは、歯根膜負担による補綴装置であるため、以下のような利点と欠点があげられる。

	項目	内容
利点	支台歯に固定される	着脱の必要がない、 支台歯と一体化するため、機能回復の効果も高い。
	天然歯に近い形態回復ができる	口腔機能や審美性を回復し、異物感が少なく自浄性の高い形態を付与できる。
	機能圧のコントロールが可能である	支持組織の負担能力に応じた咬合接触関係、頬舌的幅径、咬頭傾斜、遁路の付与により機能圧を加減できる。
	幅広い症例に適用できる	性別・年齢を問わず、生活歯、失活歯および、理由があれば健全歯にも適用できる。
欠点	歯質切削を伴う	ほとんどの場合、歯質切削により保持形態を付与する必要がある。また、固定性ブリッジの場合は、平行性確保のため健全歯質を切削することもあり、歯質の切削が多くなることにより歯冠や歯根の破折の危険性が大きくなる。
	清掃性に劣る	固定性ブリッジでは、ボンティックの基底面や連結部の形態によっては清掃が不良になりやすく、二次齲蝕や歯周病を誘発する可能性がある。
	修理が困難である	支台装置が支台歯に固定されることがほとんどであり、装着後の修理や、口腔内の状態に合わせた変更が困難である。

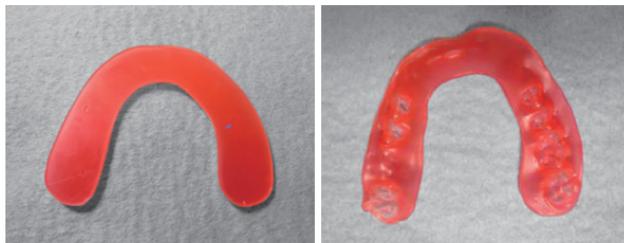


CHECK! 特に欠点の項目は部分床義歯との比較で理解するとよい。

A 咬合接触検査 よくでる

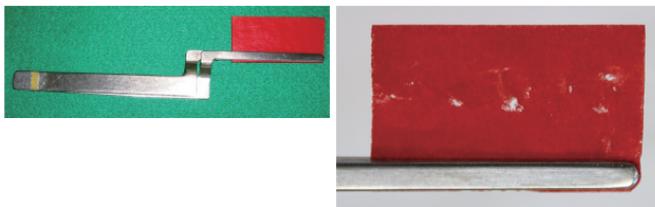
1) ワックスによる方法

咬合検査用ワックスを用い、咬合させた際の穿孔部位を咬合接触部位として観察する。



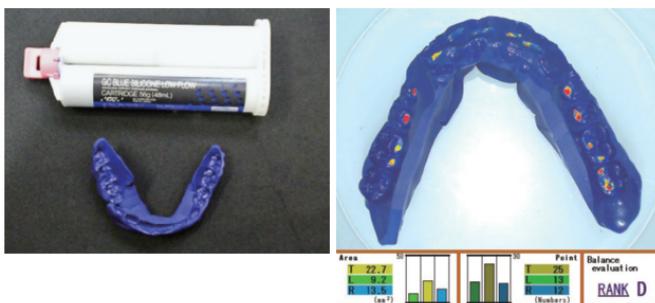
2) 咬合紙法

- ・約 30 μm の厚さの咬合紙を咬ませ、咬合接触部位の着色を観察する。
- ・咬合紙の色の抜けた部分からも咬合接触状態を観察する。

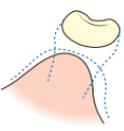
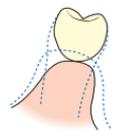
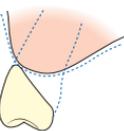
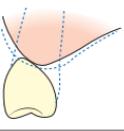
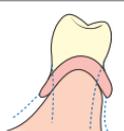
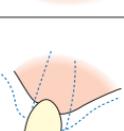


3) シリコンゴム検査材による方法

- ・シリコンゴム検査材にて咬合接触部位を記録する（シリコン・チェックバイト法）。



2) 基底面形態による分類と特徴 よくでる

自浄性による分類	基底面形態 (---抜歯前 —抜歯後)	自浄性 / 清掃性	審美性	装着感	適応 (部位など)	特徴
完全自浄型	離底型 	◎	×	×	下顎臼歯	基底面が完全に顎堤から離れる。
半自浄型	船底型 	○	△	△	下顎	基底面は顎堤に点または線状に接する。
	偏側型 	○	◎	△	全顎	基底面が顎堤の唇・頬側で線状に接する。
	リッジラップ型 	△	◎	○	主に上顎	基底面が顎堤の唇・頬側で歯槽頂まで接する。
非自浄型	鞍状型 	××	◎	◎	可撤性ブリッジ	基底面が顎堤の唇・頬側～舌側まで鞍状に全体が接する。
	有床型 	××	○	○	可撤性ブリッジ	基底面に付与された床が欠損顎堤を広く覆い、形態を回復する。
	オベイト型 	×	◎	◎	前歯	基底面が顎堤に付与された陥没部に入る→歯根部から立ち上がったような自然な形態となり、歯間乳頭の保護にも役立つ。

臨床操作

Check Point

- ・ 前処置の方法を理解する。
- ・ 支台築造の目的，方法を理解する。
- ・ 支台歯形成のポイントを理解する。
- ・ プロビジョナルレストレーションの目的と方法を理解する。
- ・ 印象採得の方法を理解する。
- ・ 顎間関係の記録と情報伝達方法を理解する。
- ・ 試適・装着の手順を理解する。
- ・ 術後管理を理解する。

I. 前処置

補綴治療の目的を達成するために，補綴治療前に行う口腔内環境を整える処置を（補綴）前処置とよぶ。

1) 予防的処置

プラークコントロールを含めた口腔衛生指導

2) 外科的処理

抜歯，歯槽堤整形・形成術，小帯切除術，歯冠長延長術（クラウンレングスニング），歯根分割，ヘミセクション・トライセクション，歯根端切除術など

歯根は歯肉縁下のみ存在

歯肉縁上に歯質を確保＝フェールール効果の獲得！



歯冠長延長術

E 築造窩洞形成の手順と器具 よくでる

1) 支台歯の概形成：各種タービン用バー

仮封材の除去と必要に応じて軟化象牙質の除去を含む。



タービン用バー

2) 根管充填材の除去：ピーソーリーマー

必要な長さまで除去する。



ピーソーリーマー



根管形成用バー

3) 根管ポストの形成：根管形成用バー

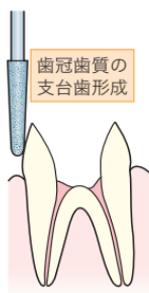
2) で除去した長さまで適切な形態を付与する。

4) 仕上げ：カーボランダムポイントなど

- ・隅角部をきれいにする。
- ・窩洞にスムーズな形態を付与する。
- ・特に印象採得を要する間接法には重要なステップである。



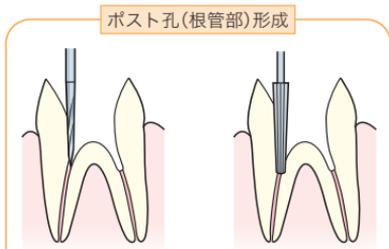
カーボランダムポイント



歯冠歯質の支台歯形成

支台歯概形成

タービン用ポイント、バー



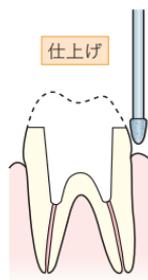
ポスト孔(根管部)形成

根管充填材の除去

根管ポストの形成

ピーソーリーマー
(先端刃先なし)

根管形成用バー
(先端丸い)



仕上げ

隅角部の整理
築造窩洞の仕上げ

カーボランダム
ポイントなど

II. ワックスパターン(ろう型)形成(ワックスアップ)

A ワックスパターンの要件

1) 咬合面

歯列との調和をはかる。

→咬合調整や咬頭干渉、咬合干渉などに関わる。

2) 頬舌面

カントウアを適正にして辺縁歯肉を含めた歯周組織保全をはかる。

3) 歯頸部辺縁

マージン部の適合が大切である。

→齶蝕や審美障害に関わる。

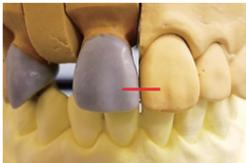
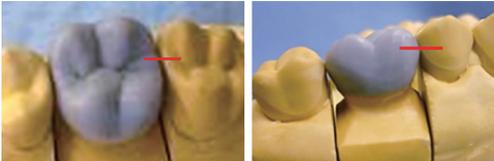
4) 隣接面

(1) 隣接面接触関係

・接触点を中心に上・下・頬・舌部に鼓形空隙が存在する。

・周囲の歯との辺縁隆線の一致も重要である。

(2) 隣接面接触点の位置と形態 よくでる

	唇・頬舌的	上下的	形態
<p>前歯部</p> 	中央	切縁側 1/3~1/5	上下的に 楕円形
<p>臼歯部</p> 	頬側 1/3~ 中央	咬合面側 1/3~1/4	頬舌的に 楕円形